

2022年（令和四年）

1月21日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

1/6～1/12のNYMEX・WTI先物市場は、78.23～82.64ドルの範囲で推移した。

1月13日は、最近の高値で利益確定売りが出やすい中、米金利の引き上げへの警戒感が高まり、3日ぶりに反落した。米国株式の値下がりも、下落要因となった。2月限の終値は前日比0.52ドル安の82.12ドル。

週末14日は、先行き石油需給のひっ迫感の高まり、ウクライナをめぐる緊張激化を背景に、買い進まれ、反発した。この日ペーカークヒューズ社発表の米国内稼働石油掘削装置は前週比11基増の492基。2月限の終値は前日比1.70ドル高の83.82ドルだった。

17日は、キング牧師生誕記念日で休場。

18日は、サウジ主導の有志国がイエメンの親イラン武装組織フーシの拠点に空爆したとの報道で、緊張の高まりから、続伸した。犯行声明のあったアブダビの石油施設等へのドローン攻撃への報復とみられる。ウクライナをめぐる緊張も続いており、リビアやカザフスタン等産油国における政情不安も意識された。2月限の終値は前週末比1.61ドル高の85.43ドルと、2014年10月以来7年3か月ぶりの高値となった。

19日は、2月限の終値は3営業日続伸、今後の石油需要の伸びへの期待感から、7年3か月ぶりの高値を記録した。2月限の終値は、前日比1.53ドル高の86.96ドル。国際エネルギー機関(IEA)の月報は、最近の旺盛な需要増加を反映し、2021年と22年の石油需要見通しが上方修正された。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(3月渡し)は、1月6日～1月12日の間、78.30～81.60ドルの範囲で推移した。13日82.40ドル、14日82.60ドル、17日85.10ドル、18日86.40ドル、19日87.20ドルで推移した。

ル、18日86.40ドル、19日87.20ドルで推移した。

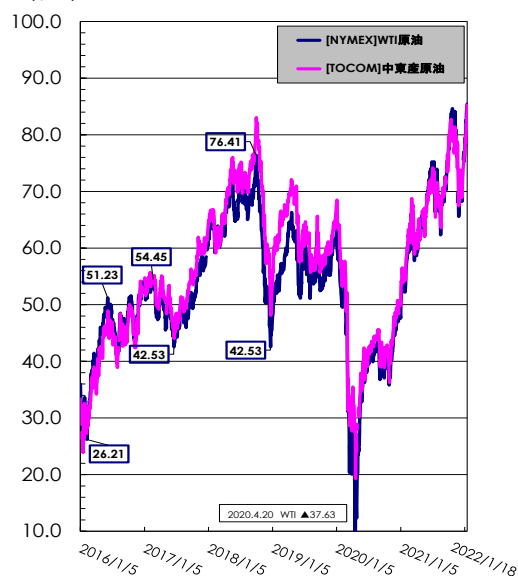
為替は、1月6日～12日の間、115.34～116.05円の範囲で推移した。13日114.65円、14日114.11円、17日114.34円、18日114.56円、19日114.72円で推移した。

財務省が1月20日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格は、58,152円/klで、前旬比1,333円安、ドル建て81.35ドルで前旬比1.92ドル安、為替レートは1ドル/113.65円。また、同日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、12月の原油輸入平均CIF価格は、58,985円/klで、前旬比160円高、ドル建て82.27ドルで前旬比0.20ドル高、為替レートは1ドル/113.99円。

そのような中で、1月17日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.9円の値上がり、軽油は同1.8円の値上がり、灯油は24円の値上がり(18%ベース)であった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりとなった。この週(1/11～1/17)の原油コストは値上がりしている。次週(1/20～1/26)の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比2.0円の値上げとなった模様。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/9 ~ 1/15	3,180	▼ -51	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	82.6	▼ -1.4	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/15	9,413	▲ 455	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/17	83.70	▲ 5.24	▲ 29.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/18	85.43	▲ 7.20	▲ 32.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月下旬	81.35	▼ -1.92	▲ 36.83
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	58,152	▼ -1,333	▲ 28,989
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	113.65	▼ -0.08	▼ -9.52
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/17	115.34	▲ 1.00	▼ -10.51

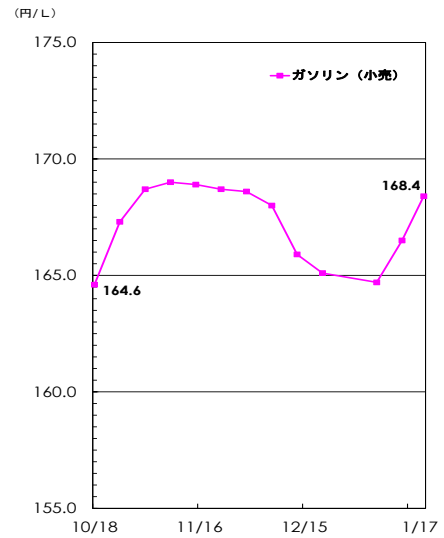
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/9 ~ 1/15	1,016 ▲ 81	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	755 ▼ -103	▼ -
	輸出	"	137 ▲ 9	▲ -
	在庫	1/15	1,684 ▲ 124	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/11 ~ 1/17	76.1 ▲ 2.0	▲ 26.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/11 ~ 1/17	72.8 ▲ 1.3	▲ 25.9
	(TOCOM/中部)	1/17	77.0 ▲ 2.5	▲ 27.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/17	168.4 ▲ 1.9	▲ 30.8

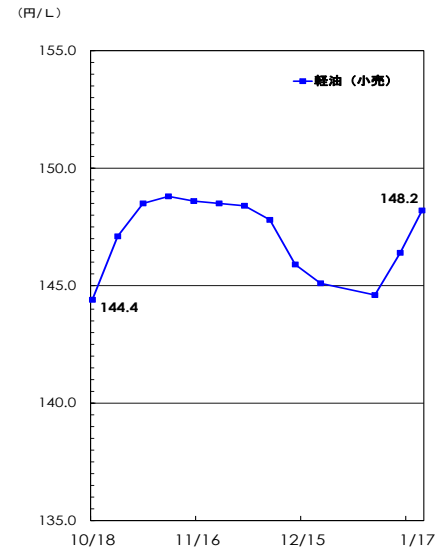
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

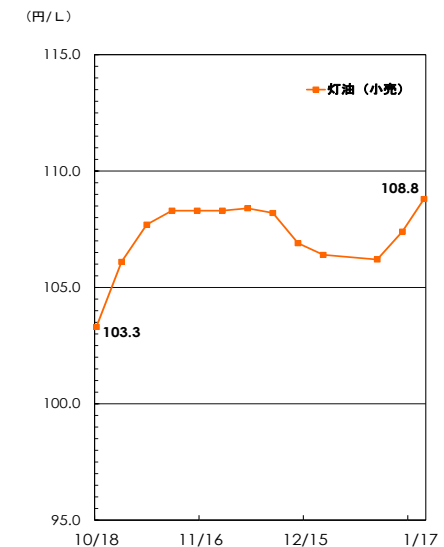
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/9 ~ 1/15	763 ▲ 78	▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	532 ▲ 113	▼ -
	輸出	"	122 ▲ 15	▲ -
	在庫	1/15	1,698 ▲ 109	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/11 ~ 1/17	76.6 ▲ 1.1	▲ 24.4
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/11 ~ 1/17	78.2 ▲ 2.9	▲ 24.6
	(TOCOM/中部)	1/17	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/17	148.2 ▲ 1.8	▲ 30.1

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	1/9 ~ 1/15	408 ▼ -49	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	593 ▲ 91	▼ -
	輸出	"	68 ▲ 19	▲ -
	在庫	1/15	1,886 ▼ -252	▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/11 ~ 1/17	76.1 ▲ 1.8	▲ 24.1
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	1/11 ~ 1/17	75.6 ▲ 0.8	▲ 24.4
	(TOCOM/中部)	1/17	77.3 ▲ 0.8	▲ 25.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/17	108.8 ▲ 1.4	▲ 27.1



■ 関連情報

1 海外/原油

1月19日のNYMEX先物原油は、今後の石油需要の伸びへの期待感から、3営業日続伸し、7年3か月ぶりの高値を記録した。2月限の終値は、前日比1.53ドル高の86.96ドル。3月限は0.97ドル高の85.80ドルだった。

米エネルギー情報局(EIA)の米国石油在庫週報の発表は、3連休のため、1日遅れの20日の予定。最近の需給バランスを反映し、9週連続の原油在庫積み増しが予想されている。

この日発表された国際エネルギー機関(IEA)の月報は、最近の旺盛な需要増加を反映し、2021年と22年の石油需要見通しが上方修正された。

EIAによると、1月17日時点のガソリンの小売価格は、前週

比1.1セント値上がりの1ガロン3.306ドル(100.6円/ℓ)、ディーゼルは同6.8セント値上がりの3.725ドル(113.4円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりとなった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2022年1月9日～1月15日に休止したトッパー能力は8.7万バレル/日で、前週に対して5.1万バレル/日増加した(全処理能力は345.8万バレル/日)。

原油処理量は318.0万klと、前週に比べ5.1万kl減少。前年に対しては18.1万klの増加。トッパー稼働率は82.6%と前週に対して1.4ポイントの減少、前年に対しては4.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油が減産、その他の油種で増産となった。ガソリン/8.6%増、ジェット/51.7%増、灯油/10.8%減、軽油/11.4%増、A重油/1.9%増、C重油/32.5%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比8.2万kl減)。軽油の輸出は12.2万kl(前週比1.5万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週比でガソリン、ジェットが減少し、その他の油種で増加した。前年比ではC重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は75.5万kl(対前週12.0%減)と2週連続で減少した。ジェット8.4万kl(対前週26.9%減)、灯油59.3万kl(対前週18.0%増)、軽油53.2万kl

(対前週26.9%増)、A重油24.1万kl(対前週7.4%増)、C重油33.4万kl(対前週37.4%増)。

(単位: 千KL)

	今週 (1/9 ~ 1/15)	前週 (1/2 ~ 1/8)	前週比
ガソリン	755	858	▼ -103 (-12%)
ジェット燃料	84	115	▼ -31 (-27%)
灯油	593	502	▲ 91 (18%)
軽油	532	419	▲ 113 (27%)
A重油	241	225	▲ 16 (7%)
C重油	334	243	▲ 91 (37%)
合 計	2,539	2,362	▲ 177 (7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月15日時点の在庫は、ガソリン、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェットが増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンは168.4万kl、前週差12.4万kl増。前年に対しては40.0万kl少ない。

灯油は188.6万kl、前週差25.2万kl減。前年に対しては25.9万kl少ない。

軽油は169.8万kl、前週差10.9万kl増。前年に対しては12.4万kl少ない。

A重油は73.5万kl、前週差2.4万kl減。前年に対しては1.1万kl少ない。

C重油は177.8万kl、前週差5.6万kl減。前年に対しては7.3万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (1/15)	前週 (1/8)	前週比
ガソリン	1,684	1,560	▲ 124 (8%)
ジェット燃料	768	821	▼ -53 (-6%)
灯油	1,886	2,138	▼ -252 (-12%)
軽油	1,698	1,589	▲ 109 (7%)
A重油	735	759	▼ -24 (-3%)
C重油	1,778	1,834	▼ -56 (-3%)
合 計	8,549	8,701	▼ -152 (-1.7%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月11日～17日の指標原油価格は前週比で値上がりし、為替レートは円高であったが、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。

次週(1/20～1/26)の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比2.0円の値上げとなった模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

1月11日～17日の製品スポット市況は、1月4日～1月10日平均と比べ、全ての油種・取引で、値上がりした。

直近週(1/11～1/17)の陸上スポット価格平均値は、前週(1/4～1/10)比で、ガソリンは2.0円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は1.1円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(1/11～1/17)に、前週(1/4～1/10)比で、ガソリンは、1.9円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは1.3円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は2.9円の値上がりだった。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (1/11～1/17)	前週 (1/4～1/10)	前週比
	レギュラー	76.1	74.1	▲ 2.0
	灯油	76.1	74.3	▲ 1.8
	軽油	76.6	75.5	▲ 1.1

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	[期近物/終値] [平均]	今週 (1/11～1/17)	前週 (1/4～1/10)	前週比
	レギュラー	72.8	71.5	▲ 1.3
	灯油	75.6	74.8	▲ 0.8
	軽油	78.2	75.3	▲ 2.9

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/11～1/17実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 2.0	▲ 1.3	▲ 1.7	
灯油	▲ 1.8	▲ 0.8	▲ 1.3	
軽油	▲ 1.1	▲ 2.9	▲ 2.0	
A重油	▲ 1.6			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

1月17日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.9円高の168.4円、軽油は同1.8円高の148.2円、灯油は18ℓベースで24円高の1,958円(1ℓベースでは同1.4円高の108.8円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は2週連続の値上がりとなった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは47都道府県で、横ばい・値下がりはない。全国最安値は宮城県で162.4円、その次は秋田県の162.8円であった。他方、最高値は長崎県の176.3円だった。最も値上がりしたのは沖縄県と香川県(前週比3.5円高)で、横ばい・値下がりしたのはなしだった。

今週(1/11～1/17)の指標原油価格は値上がりし、為替レートは円高で、円建ての原油コストは値上がりしたものと見られる。次週(1/20～1/26)適用の大手元売卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、前週比2.0円の値上げとなった模様。

次回調査時(1/24)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (1/17)	前週 (1/11)	前週比	直近高値	
	レギュラー	168.4	166.5	▲ 1.9	08/8/4	185.1
	灯油	108.8	107.4	▲ 1.4	08/8/11	132.1
	軽油	148.2	146.4	▲ 1.8	08/8/4	167.4

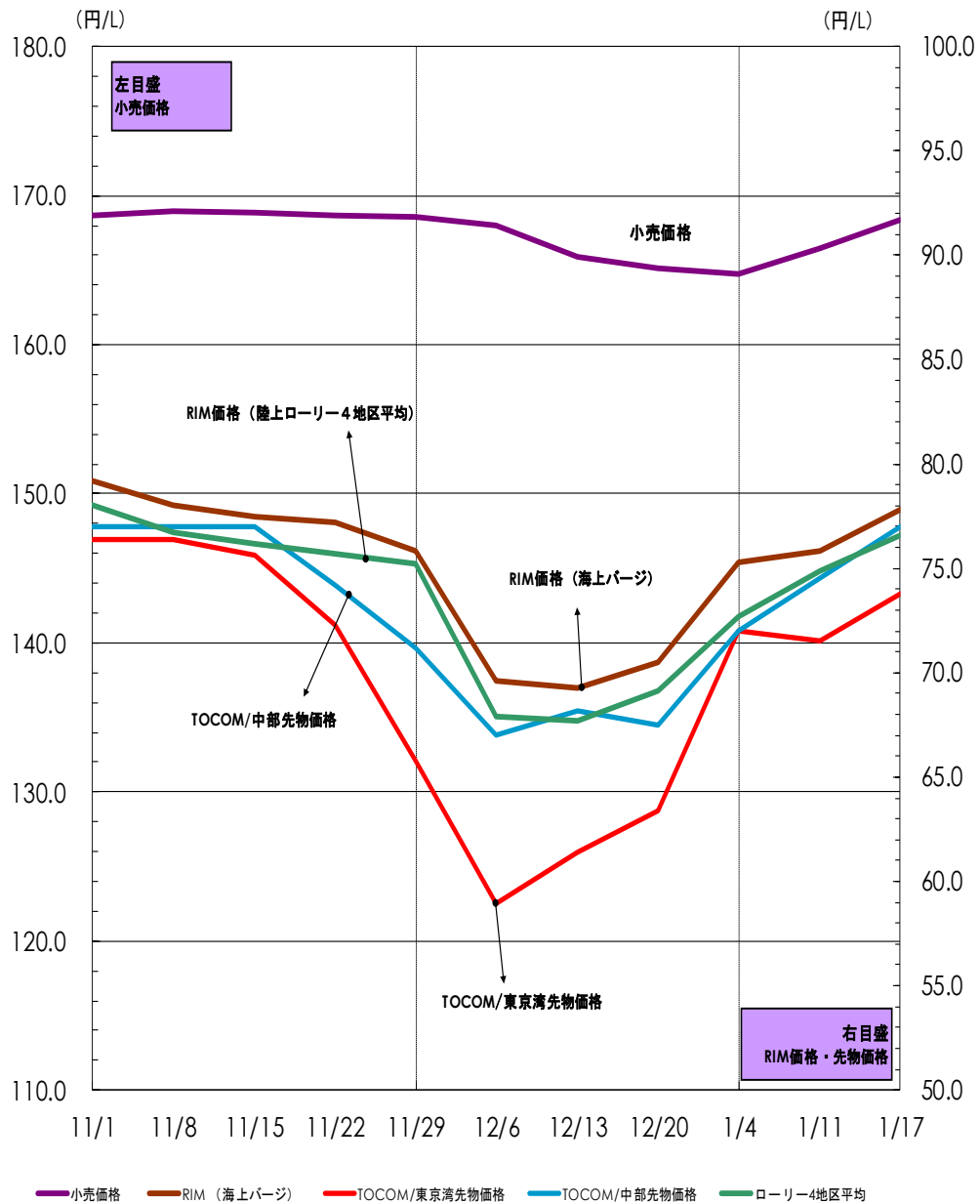
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2021/11/1 ~ 2022/1/17)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2021第41号) の公表は、1/28 (金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層 (特に給油所経営に携わる方々) から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所 (The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限 (翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」 (旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社 (RIM) 「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用 (いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格 (平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格 (平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁-HPIに掲載)。